

1. 12月全国行事

1)冬の省エネ総点検の日	12月1日
2)大気汚染防止推進月間	12月1日～12月31日
3)地球温暖化防止月間	12月1日～12月31日
4)年末年始無災害運動	12月1日～1月15日

2. 安全・衛生・防災の心得 : もっと進めよう、転倒災害防止

3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)

4. 他社 事故・災害事例から : 機械調整中、他の人が起動!

5. ヒヤリハット事例 :

2. 安全・衛生・防災の心得 : もっと進めよう、転倒災害防止

～休業4日以上 災害の25%、60%は休業30日以上～

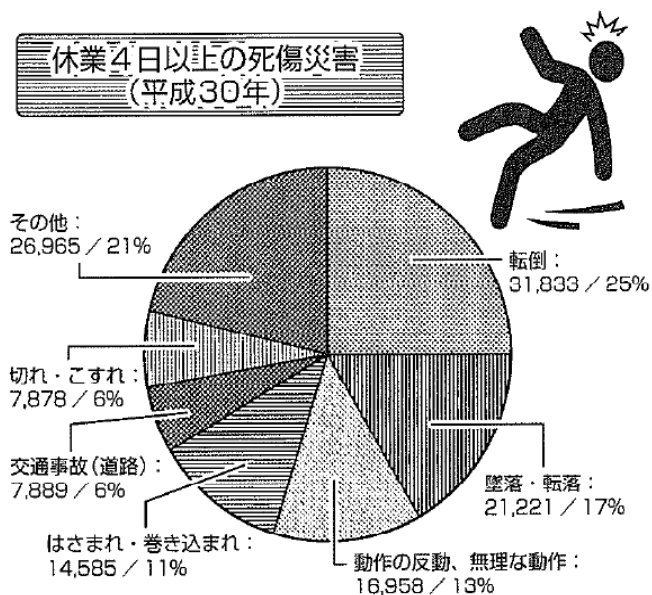
・転倒災害が増加・頻発しており、10年前の18%から最近では25%を占め、労働災害で最も多くなっています。以前は比較的軽傷でしたが、近年は休業1ヶ月以上が全体の60%を占めるなど重症化しています。

転倒災害が増えている理由のひとつとして、働く人の高齢化があげられます。高齢労働者は身体の平衡感覚や俊敏性、視認性が低下するため転倒しやすく、また、わずかにつまずいただけであっても災害の重篤度が高まる傾向があります。今後、労働力人口の高齢化が一層進行すると見込まれており、事業場における転倒災害防止対策は極めて重要になっております。

次のような転倒災害防止対策を実施する必要があります。

- ①作業通路における段差や凹凸、突起物、継ぎ目等の解消。
- ②4S(整理、整頓、清掃、清潔)の徹底による床面の水濡れ、油濡れ等の他、台車等の障害物の除去。
- ③照度の確保、手すりやすべり止めの設置。
- ④危険箇所の表示等の危険の「見える化」の推進。
- ⑤転倒災害防止のための安全な歩き方、作業方法改善の推進。
- ⑥作業内容に適した防滑靴やプロテクター等の着用の推進。
- ⑦定期的な職場点検、巡視の実施。
- ⑧転倒予防体操の励行、など。

* 冬期の積雪や氷結の転倒対策は別途。



3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)

●愛知工場

- ・C棟新設化成潤滑設備はタンク上に局排を設けて腐食対策ができていた



●平塚第二工場防錆工場

- ・安全行動心得を見やすい位置に掲示している



4. 他社 事故・災害事例から : 機械調整中、他の人が起動!

～起動スイッチに防止措置をしていなかった～

(1)災害のあらまし

- ・食品の梱包工程の職場で、作業員(被災者)が午後の15分休憩時間に、止まっている梱包機械の調整を行っていた際、休憩から戻ってきた他の作業員が被災者に気付かず起動のスイッチを入れたため機械が駆動し、被災者の右手指部分が挟まれて複雑骨折、休業30日・永久障害のケガを負ったものです。

(2)災害の主な原因

- ①梱包機械の調整部分は安全囲いで囲われていて、この囲いを開くと機械が停止する構造になっていたが、被災者は囲いの無い箇所から手を入れて調整作業を行っていたこと。
- ②被災者は起動スイッチに操作防止の措置や表示を行っていなかったこと。
- ③被災者は独断・単独で休憩時間に調整作業を行っていたこと、など。

(3)同種災害の防止対策 例

- ①機械の調整等を行うため機械を停止させたときは、他の作業員が操作することがないように鍵をかけ、操作しないように表示する等の措置を徹底する。
- ②手指を挟まれる等の危険部分はすべて囲いで覆うようにし、囲いを開いたときは機械が停止するようインターロック化を図る。
- ③機械を起動するときは、他の作業員の安全を確認し、大きな声で指差呼称して操作する。
- ④休憩時間等に単独で作業を行うときは、その旨を上司や関係作業員に言う、など。

(4)環境安全部から

- ・他の作業員が誤って設備を稼働しないように必ず電源やスイッチに「作業中 スイッチ入れるな」等の表示を行う。

5. ヒヤリハット事例

- ・事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	夕方3時ごろ
どこで	大型化成ラインで
何をしている時に	油付製品を、台車に置き、搬出しようとした時、
どうなった	横に置いてあったハンドリフターが移動し、足に引っかかりヒヤリとした

以上